

授業科目名	国文学入門(2100130)		
時間割名	国文学入門(15103)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・5		

授業の目標・概要

中学高等学校の国語教師として必要な国文学に対する基礎知識の習得を主な目的とする。日本古典文学を構成する大きな一要素ではあるが、古典文学学習者が理解に困難を感じやすい和歌を中心に取り上げ講義する。講義では天皇と和歌の関係、勅撰和歌集など、歴史と文学の関係について概観する。

学習の到達目標

- ・和歌を中心とする日本古典文学を鑑賞するのに必要な基礎知識の習得
- ・日本古典文学史の把握
- ・古典文法や修辞技巧に留意しながらの和歌内容の理解

授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 導入部 日本古典文学の特性について
日本古典文学を構成する要素にはどんなものがあるか、また、古典文学史の時代区分について学ぶ。
- 第2回 導入部 日本の宮廷における文学の役割について
明治以前まで、天皇を中心とする宮廷において文学がどのような役割を果たしてきたか概説する。
- 第3回 導入部 勅撰和歌集以前の、天皇および日本の宮廷と和歌について
勅撰和歌集以前の、天皇と天皇をめぐる宮廷において、和歌が果たしてきた役割について概説する。
- 第4回 和歌の特徴
具体的な事例を示しながら、修辞技法など和歌のレトリックについて学ぶ。
- 第5回 和歌の特徴
具体的な事例を示しながら、和歌の詠まれた「場」や「時」など、和歌を取り巻く環境を学ぶ。
- 第6回 勅撰和歌集について
勅撰和歌集とはどのようなものを指すか、なぜ企画されたのか等、勅撰和歌集の性質について学ぶ。
- 第7回 勅撰和歌集について
平安時代の各勅撰和歌集それぞれの成立状況や特徴を把握する。
- 第8回 勅撰和歌集について
平安時代の各勅撰和歌集それぞれの代表歌人や代表歌などを把握する。
- 第9回 勅撰和歌集について
鎌倉時代初期の各勅撰和歌集それぞれの成立状況や特徴、代表歌人や代表歌などを把握する。
- 第10回 勅撰和歌集について
鎌倉時代中期以降の各勅撰和歌集それぞれの成立状況や特徴、代表歌人や代表歌などを把握する。
- 第11回 勅撰和歌集について
第7～10回までの授業で見てきた各勅撰和歌集と政治状況の関係について概観する。
- 第12回 勅撰和歌集以後
勅撰和歌集以後、和歌を中心とする文学は天皇とどのように関わってきたかを概説する。
- 第13回 勅撰和歌集以後
勅撰和歌集以後、和歌を中心とする宮廷文学が、伝播していった様相について概説する。
- 第14回 和歌の変奏
和歌を中心とする宮廷文学で培われた美意識がどのように日本文化に骨肉化しているか概説する。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(50%)
さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。(50%)

授業時間外の課題

- 1.テキストや参考書、授業中に配布したプリントを読み、十分に理解すること。ノートに要点を書きだしてまとめるとわかりやすい。
- 2.不明確な点は古語辞典やウェブサイトなども利用して解決すること。

メッセージ

積極的な授業参加を求めます。毎回の出席はもちろんのこと、小レポート等の取り組みも評価の対象となります。わからない箇所はその都度、質問したり調べるなどして解決をはかるようにしましょう。

教材・教科書

渡部泰明著『和歌とは何か』(岩波新書)、丸谷オ一著『日本文学史早わかり』(講談社文芸文庫)

参考書

高等学校国語便覧など